

あすかの

日常生活紹介

森下 友美



Aさん(横地分類A1)は、本の挿絵などの平面的なものよりも、花火棒や紙でんぐりのような立体的な物に注目します。また、小さいものが大きくなる変化や上から下へゆっくり動くものを見ることもあります。立体的なものの中でも、透明感のあるほうが、奥行きがさらに感じやすくなり、形の変化が面白く感じられるのではないかと思ひ、透明のビニールバルーンやスライムのようなゲル状の素材を使い活動をおこなっています。

職員がストローの先に糊状のバルーンを付けているところから、チラッと気にするように視線を動かし見えています。

た。Aさんの視線の先にストローを動かすと、じつとストローの先端を見ます。膨らむ前からバルーンが膨らむ瞬間を待っているように感じられました。バルーンをゆっくり膨らませると目を大きく開き、その後はどんどんバルーンの形が大きく変わっていくのずっと見ています。

ゲル状の素材を伸ばすように、高い位置から下に落とすと、下へ落ちきるまで大きく目を開けよく見ます。ゲル状の塊がだんだんと細くなって落ちていく様子とゲルの透明感に興味を惹かれるのか、集中して見ていました。

Bさん(横地分類A1)は、テレビの中のキャラクターが細かく複雑に動いているのを集中して見えています。ただ、コミカルな動きが楽しいというだけでなく、動きから次に何が起きるかもしれないという期待感を持って見ているようです。

Bさんは職員の手の操作と画面の変化が楽しめるような活動を行っています。タブレットのバランスゲームのアプリを使って活動をしたときに、ニコニコマークのように顔が画面にでてきます。始めはタップする職員の指の動き



を見ていましたが、だんだん丸い顔の形が高く繋がっていく方を見るようになりました。途中でバランスが崩れ、繋がっていた丸がバラバラに落ちていくときも注目して見えていました。もう一度タップしながら顔の形を乗せていく時には、初めとは違って何かが起こる、また崩れるかもしれないと期待しているようでした。

『まるまるまるのほん』というタブレットの画面が紙になったような本があります。1ページ目で黄色い丸を擦ると、次のページでは黄色い丸が2つに増えるというように、ページを擦る、本を揺らすなどのアクションをするように変化が起きるようになっていきます。丸をクリックするところ、擦るところは真剣に見ていて、その

だいちの

日常生活紹介

村松 裕子

アクションによって次にどんな変化をするのか、期待感が高まっているようでした。

Aさん(横地分類A6)は歌いかけをすると、明るい曲調の歌では表情を緩めて楽しそうに聞いています。『エーデルワイス』のようなゆったりとした感じのする歌では穏やかなやさしい表情で聞いています。『荒城の月』のような暗い短調の歌では眉間にしわを寄せて悲しそうな表情になっていきます。歌の雰囲気を感じて心を寄せているのがわかります。日常生活では、『ピーターとおおかみ』という交響音楽で綴る物語を聞いています。それぞれの登場人物が特定の楽器とテーマ曲で表現され、主人公のピーターがおおかみを捕らえるまでの物語を表現しています。途中で状況の説明するような声も入ります。Aさんは、フルートやクラリネットなどのやさしい音色で、軽やかな明るい曲が流れてくるとパツと表情が明るくなります。そしてにこやかな表情になって、気持ち良さそうに体を揺らしなが

ら音楽に耳を傾けています。アヒルがネコに襲われそうになる場面で、突然「あぶないっ！」という声と共にシンバルやティンパニーの音が一斉に鳴ると、職員を見て目を大きくしています。アヒルがネコから逃げるために必死になっている場面で、音楽のテンポが早くなり緊迫した雰囲気になると、Aさんの表情もだんだん硬くなっていきます。アヒルが無事に逃げ、音楽が穏やかな曲調になると再びにこやかな表情で聞いています。おおかみが登場し音が低く重厚な演奏になると、体の動きを止めて眉間にシワを寄せた険しいような表情で聞いていました。演奏が終わると、にこやかな表情で満足そうに職員の様子を見ていました。



Bさん(横地分類A6)は、紙コップが並んでいく様子や